

地域コミュニティプラン 住みよい緑岡 魅力あるまちづくりを目指して



緑岡住民の会

地域コミュニティプランとは、地域の将来像や課題、その解決に向けた具体的な活動をまとめたものであり、地域住民が考える地域の将来像です

1

地域の絆を深め、支え合う協働のまち

近年、少子高齢化や核家族化が進み、地域の絆・地域社会のつながりが希薄になってきているといわれています。地域では、町内会をはじめ、各種団体との協調、連携を図りながら各種事業を展開し、支え合う地域づくりを目指しております。

住民の皆さまには、多世代において地域の行事に気がるにご参加いただき「知り合いの輪」を広げていただくと共に、地域の事業にもご協力いただければと思っております。

そして「住みよい緑岡」魅力あるまちづくりを広げていきましょう。



今、こんなことを

- 町内会活動
- 緑岡ふれあい夏まつり
- 緑岡地区市民運動会
- 広報紙の発行 「のびゆく緑岡」
「ふれあい福祉みどりおか」

これからこんなことも

- 町内会加入促進
- 地域リーダーの育成
- 子ども会の加入促進

2

安全で、安心して暮らせるまち

最近、日本各地で地震、噴火、土石流、原発の放射能洩れ等の大きな災害が発生しています。緑岡地区は今まで大きな災害は発生しておりませんが、絶対安全ということはありません。万一災害が発生しても、被害を極力少なくすることが重要です。そのために想定される災害に対しての心構え、訓練、助け合い等、地域での取り組みが必要です。又、防犯のために地域の皆さんが変質者、不審者の見張り役となって、住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めましょう。

今、こんなことを

- 防火、防災&交通安全のつどい
- 防犯灯の設置、維持管理
- 災害支援品の備蓄、井戸の登録
- 防犯パトロール
- 交通安全立哨
- 子どもの安全を守る家設置
- ひとり暮らし高齢者訪問



これからこんなことも

- 防災対策本部強化
- 放射能災害対応
- 危険箇所の調査
- 広報紙発行

3

健康で、生きがいを感じられるまち

「おはようございます。」子どもたちの元気なあいさつ。いつも元気にいきいきと毎日を過ごせることが私たちみんなの願いです。快適な日々を送るために年齢や体力に合った維持、向上を図るために子どもから高齢者まで活発な活動を展開しています。また、文化、芸術などへの参加は勿論ですが、地域の各種事業、生涯学習活動に参加することで、住民一人一人が新たな生きがいを見つけるきっかけになると考えています。健康で長寿のまち「緑岡」、生き生きと元気に暮らせるまちづくりを進めていきます。



今、こんなことを

- 市民歩く会
- スポーツ交流
- いきいき健康クラブ
- 敬老会
- ふれあい昼食会（ひとり暮らし高齢者）
- 生涯学習（緑寿大学、レディスセミナー他）

これからこんなことも

- ラジオ体操の啓蒙
- 地域を歩くウォークラリー

4

緑豊かで潤いのあるまち

住みよい環境づくりは、地域の皆さんの協力が必要です。ごみのないやさしい環境と共に、花のあるきれいなまち、緑ゆたかなまちづくりに多くの皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。地域の緑が年々少なくなってきた今だからこそ、「緑岡」の名にふさわしい環境づくりが求められます。小さなことから少しずつ積み上げて参りましょう。

今、こんなことを

- 花だんづくりと花苗配布
- 花だんコンクール
- 環境美化視察事業
- 集団資源ごみ回収
- 不法投棄防止活動

これからこんなことも

- ごみの減量化推進
- ごみ出しルールの徹底
- 犬の散歩マナー指導
- 花いっぱい運動



5

元気で心豊かな子どもを育むまち

緑岡地区は市内でも子どもの多い地域です。日々成長する子ども達は、緑岡の次世代を担う宝です。健やかに育てる為、子ども会、幼小中PTA、青少年育成会との連携をとりながら、地域のみなさまとともに登下校の安全見守りと笑顔のたえない緑岡っ子を育てましょう。



今、こんなことを

- 子ども会事業（なわとび大会、球技大会、リーダー研修会など）
- 青少年育成会事業（あいさつ運動、少年の主張大会、スナッグゴルフ大会、教育講演会など）
広報紙「緑のかけ橋」発行
- 緑岡小中 PTA 連携「きずなの会」事業
- 水戸郷土かるた大会

これからこんなことも

- 放課後の子どもの居場所づくり
- 登下校時児童の見守り強化
- 子育て広場の開催支援

6

歴史や伝統文化を継承し、新たな魅力を発信するまち

伝統文化は、この緑岡に於いても時代の流れの中で地域の合併や分割などと共に失われてきたものがあります。かつて農業を中心とした生活の中で伝えられてきた山入り、鍬入りの行事の「カラス・カラス」や、門松・しめ縄を焼く「ワーホイ」、木の枝にもちをさしたり巻いて作る「まゆ玉」、お月見の折に子どもたちが五穀豊穡を願って「大麦、小麦、三角ばったソバあたり、大豆にしょうぶ」と一軒一軒廻ったりしたこと、独特な千波盆踊りもありました。そんな忘れられつつある習わしを継承しつつ伝統文化を大切に守りながら新たな魅力を発信していきたいと思います。

今、こんなことを

- 「緑岡の今と昔」発行（平成 17 年）
- 小吹盆踊り
- ザラスコ踊り、おおすぎばやし、チリカラ太鼓の継承（小吹）
- 丹下盆踊り
- 丹下子どもみこし



これからこんなことも

- 緑岡かるた作成
- 郷土の魅力発見ウォークラリー
- 昔遊びの伝承

緑岡地区の歴史（沿革）

明治22年（1889年）3月15日、これまでの町村を分合し、新たな村制が布かれた。

見川村、千波村、笠原新田、平須村、小吹村、見和村の旧六か村を一村とし、名づけて「緑岡村」と称した。
村名は、水戸義公（水戸藩第二代藩主 徳川光圀）縁の地「緑ヶ岡」所在の地により命名された。

昭和27年（1952年）4月1日、緑岡村は水戸市に合併し、6大字名は、それぞれ町名となった。

寿小学校、見川小学校は緑岡小学校の分校としての役割であったが、寿小学校は昭和30年4月に、見川小学校は昭和39年4月に独立した。

その後、昭和50年4月 千波小学校開校、昭和51年4月 梅が丘小学校開校、昭和56年4月 笠原小学校が開校し、それぞれの地区へと発展した。



ようちょう
窈窕梅林

「窈窕梅林」の名は、この梅林の背景となっている緑ヶ岡に上る小道が、水戸藩第2代藩主徳川光圀公の時代に、その奥行き深い自然景観から窈窕坂と呼ばれていたことと、この地区の景観特徴を考えあわせて名付けられたものです。

四季の原

偕楽園がつくられた当時の里の風景を再現した四季の花咲く野原です。なだらかに広がる芝生広場があります。



地域コミュニティプラン作成にあたって

緑岡住民の会は、その前身である水戸市民憲章に基づいた活動を基本とした「緑岡地区実践会」と「緑岡地区自治連合会」との統合設立を経て、平成7年6月に結成され地域の皆さまのご支援とご協力をいただきながら活動を進めてまいりました。

設立から20年を経て、地域の現状を踏まえ、更に魅力ある地域づくりに取り組んで参ります。

そのため、コミュニティプラン作成に向けて地域の歴史や文化伝統等を見つめ直し、積み上げてきた行事や事業実績、今抱えている問題、課題などの解決に向け、更に検討を加え今後の指針とします。

平成27年3月

緑岡住民の会 会長 北條てるよ

緑岡地区マップ



- ①水戸市緑岡市民センター
- ②水戸警察署千波町交番
- ③水戸市立緑岡幼稚園
- ④水戸市立緑岡小学校
- ⑤水戸市立緑岡中学校
- ⑥茨城県立桜ノ牧高校
- ⑦水戸プラザホテル
- ⑧水戸葵陵高校
水戸英宏小学校
水戸英宏中学校

- ⑨鷲神社
- ⑩水戸緑岡郵便局
- ⑪常陽銀行 千波支店
- ⑫水戸信用金庫 千波支店
- ⑬茨城放送
- ⑭国土交通省常陸工事事務所
- ⑮茨城県総合福祉会館
- ⑯水戸サンアビリティーズ
- ⑰智学館中等教育学校
- ⑱丹下田園都市センター

- ⑲一の牧保育所
- ⑳老人福祉センター 葉山荘
- ㉑水戸農業協同組合 緑岡支店
- ㉒会澤伯民先生(正志斎)墓
- ㉓香取神社
- ㉔小吹町集会所
- ㉕水戸市清掃工場